

(東北支部事務局 長野谷務) 臨床報告

長野式治療法を試してみたら予想以上の効果に驚いたと言う人は多いと思います。今回ご紹介するのは「お血処置」です。患側の「中封・尺沢」に鍼をすることで肩こり症状がかなりの確率で改善します。運が良ければ腰痛も改善しますのでお試し下さい。本来ならば確実な診断と鍼術が必要ですが今回は難しい事は抜きにしてやってみましょう。

●症例 48歳 女性 銀行員 初診 23年7月7日

●主訴 腰痛と右肩こり

●現病歴

数年前からの「肩こり腰痛」で定期的にマッサージをするが症状の改善がみられない。既往歴に乳癌と子宮筋腫があり6年前に右乳癌リンパ節摘出後から右肩こりが悪化、息苦しく、不安になる。子宮筋腫は手のひら以上の大きさ。乳癌と子宮筋腫よりも「肩こり腰痛」が苦しいので何とかして貰いたい意向。

●所見

(望診) 顔色も良く中肉中背で「癌」には見えない健康そうな女性です。

(脈状) 浮緊洪数 「洪」は炎症亢進中「緊」は痛み

(腹診) 子宮筋腫が下腹部広範囲に硬く触れる。画像診断で4個確認。乳癌部のコワバリ。

●治療

「長野式治療」ではお馴染みの「副腎処置」「胃の気処置」「お血処置」「肝門脈鬱血処置」「筋緊張緩和処置」「脊柱横V字処置」「ネーブル処置」などを取捨選択。各処置法の刺激は脈状の変化に従います。

さて肝心の「お血処置」は右肩こりが消失するまで「中封」へ置鍼したまま「尺沢」に雀啄。肩甲間部のコリと圧痛が改善するまでを刺激の目安とします。これで「肩こり腰痛」はその場でスグ緩和されました。2回目、肩こりは消去したが腰痛が少しあり同処置。3回目(7/13)は「肩こり腰痛」は全然気にならないが下腹部の違和感があるとの事。子宮筋腫と乳癌の異様な硬さも柔らかくなり、子宮筋腫が鍼術中に小さくなる「長野式治療」の劇的変化に気を良くして現在も治療継続中です。

●まとめ

「肩こり腰痛」は内臓疾患からの内臓体制反射の症状と考え内臓の血行促進を目的に「お血処置」を使用しており、乳癌・子宮筋腫の環境改善にもなると推察しております。と言う訳で、局所治療をしたいところを我慢して「遠隔治療」にチャレンジしてみてください。

「長野式治療法」は想像論ではなく臨床から得た事実の集積です。ただ鍼は技術差が歴然としております。私は長野潔先生の真似から始めましたが「1日の長がある」各講師陣の脈診と鍼術の真似から始めてみては如何でしょうか。各処置法のツボと解説はセミナーテキストに詳しく解説されているので省略いたしました。